



市政同志会
佐々木一弥 議員

平成30年福井豪雪について

問 今回の大雪に対する鯖江市の対応は。

答市長 37年ぶりの大雪で、道路の除雪が追いつかず市民生活に大変支障をきたす状況となったが、除雪協力事業者の方々には昼夜を問わず作業を実施していただき、心から感謝を申し上げる。

鯖江市としては、2月6日に雪害対策本部を立ち上げ、市内全地区公民館に除雪基地を開設し除排雪作業を開始した。さらに、災害の対応を強化するため、翌7日には災害対策本

部に切り替え、県との連携強化を図った。今後、この教訓をいかし、

本部の体制強化、除雪の効率性向上に対する体制整備などの見直しや市民の皆様と協働した雪害対策に取り組むことが今後の大きな課題とされている。

問 今回の雪害対策に対する施策の修正点について、現時点で見えている点はあるのか。

答市長 車社会での車両の増加、除雪道路延長の拡大、除雪業者の減、オペレーターの高齢化や人数の不足などの問題がある。対策として、住民の方々、集

落の方々の自助共助協働で地域ぐるみでの除雪対策、備災に対する訓練など集落体制のあり方にも十分検討していかなければならない。

問 新学習指導要領に対する市の取組と、それに伴う教員の多忙化対応は。

答教育長 情報活用能力の育成を目的とした、プログラミング体験のクラブ活動を市内全小・中学校へ広げたい。教員への負担軽減として、小学校の外国語授業に対する外国人講師の派遣回数増加をはじめ、部活動支援員、学校運営支援員や学習支援員、学級復帰支援員、そしてチャイルドセンターの指導員の増員などを計上した。

予算編成方針について



市民創世会
大門 嘉和 議員

予算編成方針について

問 一般会計予算は約253億円、昨年度に比べ3億円の増。予算規模を増やした要因と重点を置いた施策等は。

答市長 教育費が前年対比で約4億2千9百万円増えた。英語教育の充実が望まれていた。また、学校運営支援員を全ての小・中学校に配置し教員の多忙化にも対応予定。眼鏡、漆器、繊維等、これから国際化、海外を目指した販路の拡大が非常に重要。さらに、シティプロモーション枠、国体に係る美化枠、SD

G Sの施策の推進などで予算枠が膨れた。

問 財源確保に向けたあらゆる方策とは。

答市長 税収の安定確保については、地域経済の活性化に限る。この面での施策の展開が非常に重要。また、収納率の確保を図っていく。大規模な施設は原則凍結。特別会計の財政基盤の安定化が非常に大きな課題。その他、国・県の制度の導入を図って、市単事業を減らす。ふるさと納税、クラウドファンディング、FXGは充実強化を図る。消費税が10%に引き上げの際、受益

と負担の適正化を前提として使用料減免も議論していく。公共施設の統廃合も考える。

問 U・Iターナーや子育て支援に重点的に配分するとしているが。

答 シティプロモーションにより関係人口、交流人口を増やして、定住者の獲得につなげたい。移住定住希望者向けにガイドブックを作成し、PR活動を行う。また、子育て支援センターで一時預かりを実施したい。ひとり親家庭の児童に学習支援事業を実施。母子自立支援員などの配置も考えていく。

そのほかの質問

- シティプロモーションの進め方について
- 仮面女子とのコラボレーション事業について